

発言No. 12

受付No. 2

令和6年2月8日

9時58分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 10番

氏名 串崎 利行

答弁を求める者 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
(○をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 農業の振興について

(1) 農業特定技能2号について

- ① 人手不足で即戦力となる外国人労働者を受け入れる在留資格が、昨年8月末より農業分野で2号対象が追加になり、2号対象になると在留期間に上限がなく、長期の人材雇用に繋がる可能性がある。市内における農業分野での外国人労働者の従事者数と現在の状況を伺う。

(2) 農業版BCPについて

- ① 気候変動の影響で自然災害が多発する中、「農業版BCP（事業継続計画書）」が重要視されている。災害時の緊急対応をあらかじめ決めておくもので、損害を最低限に抑え、事業の継続や早期再開につなげるのが目的だが、市の考えを伺う。

(3) 仮想現実（VR）について

- ① 農業分野のさまざまな課題の解決に仮想現実（VR）技術が役立っている。栽培技術や農作業安全の研修などができ、VRで初心者の方も篤農家の技を習得できれば、産地のレベルアップに繋がると感じるが、普及に向けた市の考えを伺う。

(4) 浜田市弥栄肉用牛改良流通センターについて

- ① 浜田市弥栄肉用牛改良流通センターは、JAしまねが運営から撤退する方針を決定され、県内各地に影響する大きな問題であり、定例会議で幾度となく質問をしてきたが現在の状況を伺う。

2 「いわみ留学」について

- ① 「いわみ留学」は、県と県西部の市町村が連携し県外から若者を呼び込み、その若者が地域に一定期間滞在する中で、まちづくりや産業に携わる事業である。若者の滞在人口を拡大し、担い手不足解消や地域の活動を維持するのが狙いとされており、県は 2024 年度に試験的に事業を実施し、2025 年度以降の本格導入を目指すとの報道がされている。人口減少が進む浜田市において、外部人材が常にいる仕組みづくりは、地域の活動を維持するために有効な手段と考えるが、この事業への取り組みについて市の考えを伺う。
- ② いわみ留学を進める中では、地域と留学生を上手くマッチングさせる中間組織が必要と聞けるが、浜田市における状況を伺う。
- ③ 今後、多くの留学生を受け入れるには、各地域に若者に対応した住宅が必要と考えるが、市の対応策を伺う。
- ④ 従来の定住を前提とした外部人材へのアプローチは、今の若者にはハードルが高いと感じるが、「滞在人口」の考え方も含め、今後の U・I ターン施策をどう進めるか伺う。